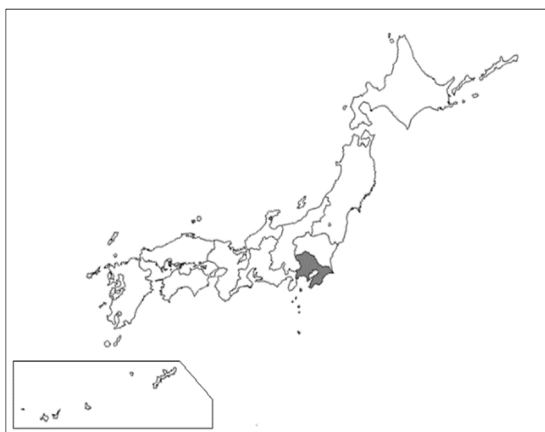


(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はこのところサービス支出を中心に弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

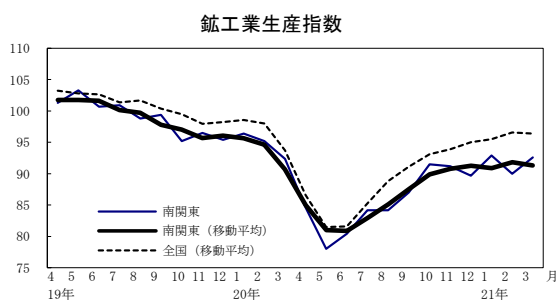
前回からの主要変更点

	前回（令和3年3月）	今回（令和3年6月）	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	↓
個人消費	このところ弱含んでいる	このところサービス支出を中心に弱い動きとなっている	↓

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直している。

1－3月期の鉱工業生産は、「汎・生産・業務用機械」が増加したこと、「石油・石炭、化学、プラ製品」が増加したこと等により、前期比1.1%増となった。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。南関東の最新月は速報値。
 2. 全国及び南関東の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。
 3. 南関東は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10-12 月期	1-3 月期	1月	2月	3月
石油・石炭、化学、プラ製品	22.2	3.2	1.4	2.8	▲5.9	9.4
輸送機械	14.1	9.6	▲3.4	▲2.7	▲5.5	12.1
汎・生産・業務用機械	13.7	12.8	5.7	7.0	3.7	▲5.0
電子デバ、電気・情報通信	12.6	11.0	▲2.0	8.9	▲6.4	▲3.7
食品・たばこ	12.4	0.1	—	▲1.2	▲3.3	—
鉱工業	100.0	6.7	1.1	3.6	▲3.1	2.9

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 1－3月期、3月は速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの、食品・たばこは公表されていない。
 3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

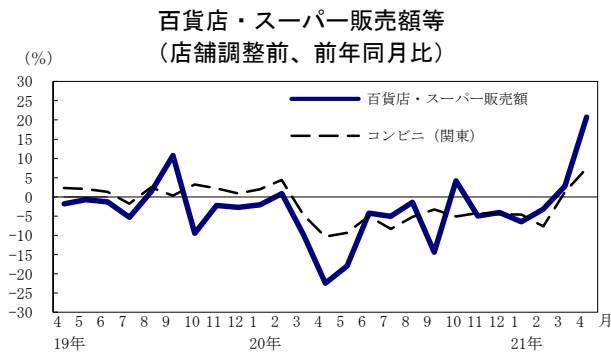
個人消費はこのところサービス支出を中心に弱い動きとなっている。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1-3月期は前期比0.9%減となった。月別にみると、1月は前月比3.0%減、2月は同3.7%増、3月は同0.6%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1-3月期は前年同期比2.4%減となった。月別にみると、1月は前年同月比6.5%減、2月は同3.3%減、3月は同2.8%増となった。



	2021年1-3月	2021年1月	2月	3月	4月
RDEI (消費*1)	▲0.9	▲3.0	3.7	0.6	—
百貨店・スーパー(*2)	▲2.4	▲6.5	▲3.3	2.8	20.7
コンビニ(*3)	▲3.6	▲4.6	▲7.7	1.3	7.5
乗用車(*4)	4.3	7.1	1.3	4.8	40.8
(季節調整値) (*4)	▲4.6	1.7	▲6.6	3.4	3.7

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

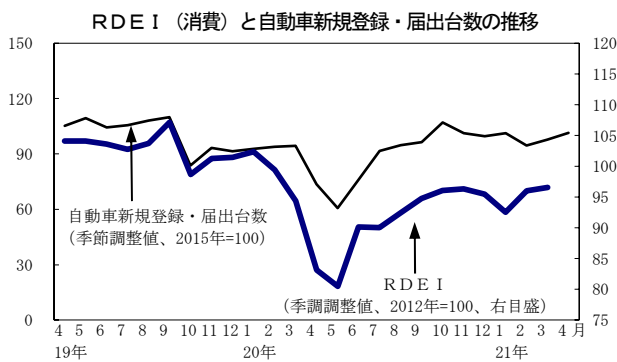
2021年4月は速報値。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

2021年4月は速報値。

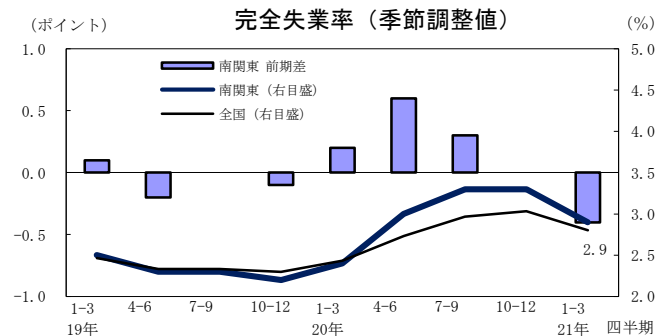
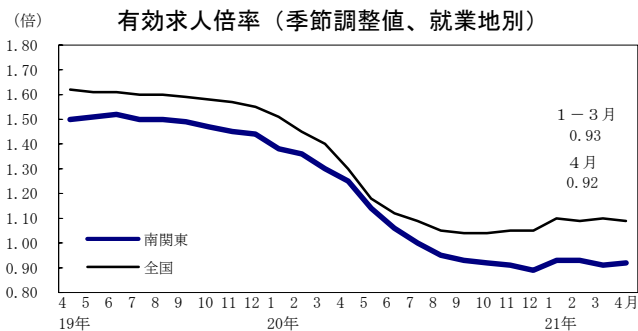
4. 乗用車は、新規登録・届出回数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年4月調査) 景気判断理由の概要

4. 南関東

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
			判断の理由
現状	家計 動向 関連		・出掛けることがなくなり、出費が少なくなったので、ストレス解消に美味しい物を家で食べる、というスタイルは変わっていない(スーパー)。 ・緊急事態宣言再発出における営業自粛要請の影響が大きい(百貨店)。
		×	・酒類の提供自粛、時短営業で、予約もウォークイン客も激減している(高級レストラン)。
	企業 動向 関連		・3か月前と比べれば、主用途向け需要期のため、足元の仕事はある程度確保できているが、前々年と比べると下げ幅が大きく、回復の兆しが見えない。悪いままである(化学工業)。 ・4月以降はイベント関連も開催に向けた準備で動き出していたが、新型コロナウイルス感染第4波の影響で、5~6月のイベントはほとんどが中止になっている(広告代理店)。
		×	・従来の案件は減っているが、業態転換により新規問合せが増えてきている(その他サービス業[ディスプレイ])。 ・酒屋なので、これまでも時短営業で非常に悪かったが、ここにきて酒を飲むこと自体を駄目と言われているので、最悪である(食料品製造業)。 ・当社の関連する建設機械業界は、ピーク時と同等の生産量であり、今後もこの傾向が続くと予想されている(金属製品製造業)。
	雇用 関連		・合同イベントに参加する企業は例年と変わらないように思われるが、個別に主催する会社は少なく、予算を掛けずに実施している企業が多い(民間職業紹介機関)。 ・エンジニアの派遣需要は、僅かではあるものの上向きになりつつある(人材派遣会社)。 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、長期にわたって採用を抑制する企業が増えている。特に、生活関連、娯楽サービス、飲食、宿泊サービス業において顕著である(職業安定所)。
その他の特徴 コメント		：緊急事態宣言が再発出されたことにより、特にショッピングセンター内の来客数がかなり減っており、コンビニもかなり厳しい状況である(コンビニ)。 ×：まん延防止等重点措置の適用や緊急事態宣言の再発出等の影響で、宿泊、飲食共に客足が途絶えている(都市型ホテル)。	
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・新型コロナウイルス感染拡大防止のための3度目の緊急事態宣言発出、まん延防止等重点措置の適用に伴い、ゴールデンウィークの来場者数、商談数共に減少する。当然ながら販売量も比例して減少し、景気はしばらくやや悪い状況で変わらない(住宅販売会社)。 ・新型コロナウイルスは当分収まりそうもないし、また、変異ウイルスが身近に迫っているような感覚も、客の様子からうかがえる。前年の今頃に比べると、緊迫感が数倍増しているような気がする。この先がまだまだ心配である(タクシー運転手)。
		企業 動向 関連	
	雇用 関連		・新型コロナウイルス禍であることに求職者も企業も慣れてきており、そのこと自体で採用が休止になることは余りなくなっている(求人情報誌製作会社)。
	その他の特徴 コメント		：東京オリンピック需要もあり、大型テレビの販売が期待できる。それと同時に、夏に向けて空調関係を中心に白物の動きも出てくる。新型コロナウイルス禍によりトレーニング機器や調理関係の商材も引き続き良い流れで推移すると見込んでいる(家電量販店)。 ：本来であれば夏の繁忙期に向かうところだが、東京オリンピックの開催形態及び新型コロナウイルスの感染状況次第で、今より悪くなる可能性もある(その他レジャー施設[総合])。

(D I) 現状・先行き判断D I (南関東)の推移(季節調整値)

